第１６回新五流総フォローアップ委員会　議事要旨

日　時：令和元年８月 26 日（月）14：00～16：00
場　所：OKB ふれあい会館　４･２会議室

１．議事
（１）委員会規約の改正について
（２）新五流域総合治水対策プランの進捗について
　１）プランの進め方について
　２）ハード対策について（河川改修、耐震化、長寿命化、魚道点検）
　３ソフト対策について
（３）地域委員会の報告について
　１）長良川流域
　２）揖斐川流域
　３）木曽・飛騨川流域
　４）土岐川流域
　５）宮川・庄川流域

２．議事要旨
（１）委員会規約の改正について
　議事の項目（１）について、改正内容について事務局から説明があり、質疑等はなく了承された。
　委員の皆様の賛同が得られたため、委員会規約を改正し、本日付けで執行する。

（２）新五流域総合治水対策プランの進捗報告について
　議事の項目１）、２）及び３）の内容について事務局から説明があり、質疑応答や意見交換がなされた。各項目について交わされた質疑応答や意見交換の主な内容は以下のとおりである。
【和田委員】
　ハード対策の魚道点検について、昨年の７月豪雨では、多くの河川で災害が発生したが、５流域の中で土岐川流域は１箇所Ｄ評価があるものの他に比べて低評価が少ない。これは流域特性によるものか。もしくは魚道に対して工夫等しているのか。
【事務局】
　流域それぞれの特性ということで土岐川流域がこういった結果となっており、特質的な工夫等は行っていない。土岐川流域は全体的に管内が狭く、他に比べて魚道の数が少ないことが影響していると思われる。

【高見委員】
　河川構造物の長寿命化について、長良川流域の板屋川逆水樋門のスピンドル式開閉装

置本体の評価は×となっている。これは電気的な設備の不具合ということであるが、表中にはスピンドル式開閉装置本体の評価が△３ものが多く見られ、これらについては電気関係の不具合はないということでよろしいか。

また、河川の長寿命化計画が５年経過し、今後見直しをされるということで、計画時はマニュアルに準拠し、標準的な年数で策定されているが、実際に５年経過し、施設の痛み方を比較してマニュアルとの違いを明らかにし、より精度の高い計画にしていただきたい。国のマニュアルが時間経過保全から状態監視保全という考え方に移行しているため、その効果がコストダウンにつながったかもまとめてもらいたい。

【事務局】

全ての施設について、同じ点検様式、方法で電気抵抗等点検を行った上で、板屋川では特異的な不具合があったということで×となっている。

また、河川の長寿命化計画の見直しについて、現在は標準的な対応年数で計画を策定しているが、実際の気候や使用頻度によって施設ごとに痛み方が違うため、実情を見ながら、更なるコスト縮減に繋がるよう見直しをしている。

【杉戸委員】

住民避難に関わる市町村の取組について紹介のあった、御嵩町のスマートフォンを利用した防災情報伝達の多様化では、このような情報をキャッチできない、できても１人では逃げられない高齢者や体に不自由がある人はスマートフォンを持っていない。一方で国の取組に避難カードというものがあり、連絡すべき人全員を小さなグループに分け、連絡網を作成するものである。こちらの方が優先的に取り組むべきであり、県として地域の支援を積極的にされた方がいいと思われる。

【事務局】

災害時の避難カードについては、県防災部局にて昨年度から各市町村を回り、助言や指導を行っている。その際に洪水浸水想定区域図や水害危険情報図の情報を提供している。

（３）地域委員会の報告について

議事の項目１）～５）の内容について事務局から説明があり、質疑応答や意見交換がなされた。各項目について交わされた質疑応答や意見交換の主な内容は以下のとおりである。

【西篠委員】

江名子川と宮川本川との合流付近には、非常に幅が細い歴史的建造物がある。そのため、江名子川の掘削をした場合に宮川本川にも影響があるのではないか。過去に江名子川の中流部分で中間的に貯留施設の検討がされていたと思うが、これは考慮されているのか。

宮川防災ダムは農水関係の施設と聞いているが、この施設との連携等について教えていただきたい。

【高山土木事務所】

江名子川は、河道の改修効果だけでは限られているため、上流の洪水調節施設の計画

を予定している。現在は測量等を行っている状況である。

宮川上流の防災ダムについては、農政部局管理の施設になる。現在の宮川の改修計画の中にはダムの効果を反映させていないが、洪水時やダムの耐震の際には連絡等している。

【藤田委員長】

他のところでは利水ダムと連携しているという情報があるため、防災対策も含めて活かしていただきたい。平成１６年の災害の後には、地元で宮川防災ダムについて、色々と議論があったと記憶している。地元の関心が高いところでもあるため、しっかりと検討していただきたい。

【林田委員】

多自然川づくりに限らず護岸を施工する場合に注意点が２つある。１つ目は、明度をできるだけ小さくすることである。明度が大きい護岸を入れると周囲に溶け込まずに目立ってしまい、景観を損ねる恐れがある。２つ目は、護岸の表面がザラザラしたものを入れ、なるべく生物に配慮することである。環境面への配慮状況を確認したいので、もう少し写真を増やすか、別紙の資料を作成していただきたい。

【和田委員】

揖斐川流域の大谷川の改修状況について、橋梁や JR 橋の改築や洗堰の改修など様々な計画があるが、今後、どのような順序で工事を進めていくのか教えていただきたい。

【大垣土木事務所】

まずは、橋梁の架け替え工事を行います。障害となっている菰田橋の架け替えと同時に並行して JR 橋の架け替えのための協議を進めており、詳細設計に進めるよう JR と調整中である。これら一連の工事が完了すれば堤防のかさ上げに着手する予定である。

【藤田委員長】

木曽飛騨川流域で説明された災害対応対策の備えで備蓄されている機材について、実際に機材が必要になる際には、水防団や消防団がそれを使って活動することになると思われるが、そのあたりの情報共有はできているのか。

【事務局】

災害時の応急対策用の資機材は、大型土のうなど比較的大きな規模の災害時に重機等を用いて使用するものである。そのため、水防団や消防団というより、県と協力関係にある会社が中心となって使用するため、協力会社との情報共有はできている。